

青梅市文化財ニュース

第416号

令和4年6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

―三田村信善講 善光寺参拝プログラム―

長野市の善光寺では、令和4(2022)年4月から七年に一度の「前立本尊御開帳」が開かれており、連日たくさんの参拝客が訪れています。善光寺は日本に仏教の諸宗派が生まれる以前に創建されたとも言われることから、宗派を問わずだれでも参拝することができます。「牛にひかれて善光寺参り」などの昔話もあり、古くから庶民に信仰されてきました。

今から90年前の昭和7(1932)年に、市内旧三田村の講中が、二泊三日で善光寺に出かけた記録が残されています。当時はどのようなルートで、どのくらいの時間を費やして善光寺に参詣したのか、「三田村信善講 第三回善光寺参拝プログラム」と題されたガリ版刷りの日程表から辿ってみることにします。三田村とは江戸時代の御嶽村、沢井村、二俣尾村が明治22(1889)年に合併してできた村で、現在の沢井地区(御岳山、御岳、沢井、二俣尾)に該当します。

「三田村信善講 第三回善光寺参拝プログラム」(以下プログラムと略す)には、「昭和七年十月二十二日 晴雨に拘ラズ出発致します」と書かれ、10月22日(土)から24日(月)の日程が組まれています。

22日は、御嶽駅6時44分発(二俣尾駅6時56分発)の青梅線で立川駅まで行きました。「御嶽、沢井、軍畑ヨリ御乗車ノ方ハ二俣尾マデノ切符ハ各自御購求ノコト。二俣尾ヨリ立川マデノ間ニ弁当ヲ配付致シマス」と書かれていて、二俣尾駅で全員が乗車し、団体切符と弁当が配られたようです。その後、立川駅7時50分発の東京行省線電車で神田駅で乗換、上野駅には8時50分に着きました。現在、御嶽駅6時47分発の電車に乗ると、上野駅には8時53分に到着しますから、90年前も今も所要時間が変わらないことがわかりました。

信善講の一行は、上野駅10時発の信越本線から北陸本線に入る富山行に乗り込みました。プログラムには「中山道ヲ上州ニ入り高崎ヲ経テ信越線ニヨリ軽井沢、碓氷峠ヲスギ浅間山ノ噴煙ヲ右ニ信州ニ入ル、長野着午後五時」と書かれています。上野駅から7時間をかけて長野駅に到着し、善光寺の宿坊である尊勝院に宿泊しました。

23日は「朝食後善光寺参詣、案内者ツキニテ名所見物、宝物殿拝観、長野市見物ノ上一泊」と一日かけて各地を巡りました。

24日は長野駅6時25分発の汽車に乗りました。プログラムには、「中央線ニヨリ途中、

川中島古戦場、姥捨山ノ古跡、製糸場多キ辰野岡谷ヲ過ギ諏訪湖ヲ右ニ車窓ニ見ツツ甲府ヲ経テ立川ニ帰着」とあることから、帰路は長野駅から篠ノ井線で松本駅に出て、中央本線に乗換、立川駅には16時23分に着いたようです。

プログラムの最後には“注意”として「なるべく軽装で洋傘一本用意の事、一区内の団員は常に一團となり行動すること、指揮者の命令に従ひ自由行動をとらぬ様願ひます」と書かれています。

この信善講に参加した、プログラムの持ち主は当時72才の老婦人で、他に「善光寺如来御縁起」「善光寺大本願寶物天覽品目録」「善光寺御繪詞傳」「永代宿坊尊勝院講院優待証」「善光寺特別信徒章」を持ち帰っていました。老婦人を送り出した家族の日記には「十月二十四日、夕方信善講帰宅。一同元気で病人もなかりしこと」と帰宅したことに安堵した様子が記されています。また、善光寺みやげの「鋳物製茶たく」が今も大切に残されています。

現在、東京駅～長野駅間は北陸新幹線で1時間半、長野駅から松本駅経由で立川駅へは、特急で3時間半の道のりです。90年前の善光寺参拝への旅は、今の何倍も時間はかかりましたが、じっくり車窓の景色を楽しんだ、一生に一度の旅であったと思われます

(文責 小島みどり)

